



東 浩一(ひがしこういち)議員

一括質問

小松の農業振興・松東地区の教育 環境・災害への防災意識について

◆小松の農業振興について

Q 総合選果場の建設と今後の振興についての考え方は。

A J A小松市がトマト・ニンジンなどの生産拡大と農業所得の建設を計画している。市としても小松トマトの振興にあたり、J A小松市と連携協力して取り組んできたところであり、選果場建設は産業振興に非常に役立つと捉えている。建設を契機にさらなる振興を図ってきたい。

◆松東地区の教育環境について

Q 金野・瀬領保育所の統合について。

A 県内初となる公立での「幼児連携型認定こども園」であり、幼稚園のよさ「学び」ことをさらに充実させていく。国際人としての教育も充実していきたい。令和4年春の開園に向け、地域の皆さまの理解と後押しをお願いしたい。

Q 松東みどり学園のモデル校としての取り組みは。

吉田 寛治(よしだかんじ)議員

一括質問

小松市のSDGs 未来都市の取り組みについて

Q 市が掲げた小松市SDGs未来都市計画2030年のあるべき姿には、日本一「おもしろい」「たくましい」「こちよい」「はつらつ」としたひととまちがある。福祉のこと、地域サポートクラブを広めていくのは難しく、現場の意見としてボランティアで対処するには限界がある。また、高齢者の方の買い物や入浴のためのバスがどうして必要なのではないのか。

A SDGsの実現に向け「予防先進」を合言葉に健康寿命の延伸、家族みんなが安心・快適に暮らす地域社会の形成を目指す。そのため、健脚体操や地域協議会設立の推進等を展開していく。市民団体等と連携して地域課題を解決していくことで実現に努めていきたい。

Q 環境について、市職員及び議員がマイボトル、マイバックを持つことを市民に先立ち率先して行い、それを広く知らせ、プラスチックごみゼロを目指していくべき。

A SDGsでは「海洋プラスチック汚染の抑制」を掲げてい

る。4R等、ごみ減量化等に向けた意識は高まっており、特にマイボトルの使用に関しては児童生徒をはじめ企業にも浸透している。職員についても引き続き周知に努めていく。

Q 日本一「はつらつ」としたひととまちにおいては、引き続き図書館のことに期待したい。石川県内の居住満足度の記事では小松市は5位の中にも入っていない。10年後の小松市には日本一にふさわしい図書館が必要だと思う。市長はどのような決意と責任を持って日本一に向かうのか伺いたい。

A SDGsの目標達成からも、「エリア図書館」という考え方も必要である。図書館においても「双方向での学びの場」が必要であり、市立図書館ではビブリオバトル等、相互に考えを交流できる場を設定してきた。図書館近隣の施設と連携して質的向上を図っていく。



木下 裕介(きのしたひろゆき)議員

一括質問

プラスチック削減、まずは市役所から

◆プラスチックごみの削減

Q プラごみ削減にはオール小松での取り組みが必要不可欠。その中心となる本市がプラごみゼロ宣言を行ってはどうか。

A 2019年7月にSDGs未

来都市に選定され、森林や海の保全、食料問題など、持続可能な社会を目指し取り組みしており、今後目標達成に向け施策を展開する。

Q プラごみ削減の最優先はリデュース(ごみの発生抑制)。まず「隼より始めよ」で本市販売のペットボトルやイベントで配布しているうちを廃止してはどうか。

A プラスチック製品は生活と密着しており、すべての製品からプラスチックを取り除くのではなく、リサイクルの徹底を重視したい。ペットボトルは市も分別回収を実施し、日本のリサイクル率は85%と他国に比べ非常に高い。

◆男性の育児休業取得について

Q 市男性職員の状況と目標は。

A 取得率は平成30年度目標値11・3%に対し4・35%、令

和元年度12月時点で目標値15%に対し6・67%となっている。

◆市消防署出張所の老朽化対策

Q 築44年が経過した西出張所は未耐震で耐震診断も実施されていない。早期に対応すべき。

A 西出張所はその都度、外壁、屋根、空調などの改修を行っており、機能上、支障はない。

Q 築37年の栗津温泉出張所は今後単独で整備するのか、南消防署と一体的に整備していくのか。

A 南消防署との統合は現状では考えていないが、将来消防本部の広域化が進んだ場合、検討していく。

◆災害用備蓄品に液体ミルクを

Q 3月から国内販売された液体ミルクは粉ミルクと違い、お湯が不要で災害時にもすぐに使用できる。備蓄品として導入を。

A 現状、ミルクアレルギーに対応した液体ミルクは国内では未販売であり、今後は安全に利用するための条件や保存期間などを考慮し、普及状況にあわせ導入していきたい。



高野 哲郎(たかのてつろう)議員

一括質問

パブリックビューイングについて

Q 2019新語流行語大賞に「ワンチーム」が選出された。日本中がラグビー色に染まった。小松でのパブリックビューイング(PV)にも多くの人が集まり、PVが市民権を得たと考える。今年は、オリンピック・パラリンピックが控えており、特に地元小松市や、石川県にゆかりのある選手の応援に市も積極的に尽力すべきと考えるが市の対応は。

A 小松市ゆかりの選手や事前合宿に訪れる各国選手の出場競技を中心にPVを計画し、その他競技についても各種協会を支援したい。会場は各競技の拠点施設を中心にスポーツ施設や民間施設も活用予定である。

Q 北陸新幹線が約3年で完成する。長大な高架下が出現する事となり、その活用は大変重要なポイントになると考える。現在、どのような構想で高架下活用を進めているのか。

A 小松市は東西で駅の雰囲気の違い、駅西は歴史と伝統、町家が並び伝統芸能など歴史的なものを学び、駅東は科学と人づくりをテーマ

に未来ゾーンとし、小松駅周辺を学びのエリアと位置づけている。駅には観光案内所や飲食店、お土産店などは必須であるが、駅利用者だけでなく、ビジネスマン・学生・市民が楽しめる「学び」をテーマに整備していく。

Q これからどのようなスケジュールで高架下の活用案が進んでいくのか。

A 基本構想がまとまり次第小松駅周辺デザイン検討会に諮り議会に説明のあと、パブリックコメントを求めていく。令和2年度から高架下の設計に入り、令和5年3月開業予定である。



乗降客だけでなく賑わいのある高架下へ (NEXT10年ビジョンによる駅周辺イメージ)



橋本 米子(はしもとよねこ)議員

一括質問

小松市民病院及び 栗津診療所の診療体制について

Q 市民病院精神科26床が昨年10月より休床になったが南加賀の中核病院として復活の見通しについて。

A 9月末で常勤医師が1名退職し、医療安全面等を考慮して休床とした。入院が必要な方は精神科救急医療体制システムの連携病院の協力で、迅速かつ適切な対応で入院手続を行う。

Q 尾小屋及び大杉診療所の診療体制はどうなっていくのか。

A これまでどおり尾小屋は毎週木曜日の14時から16時。大杉診療所は毎週木曜日の予約制である。

Q 在宅療養への支援策について。

A 患者が退院後スムーズに在宅療養に移行するため、つなが

るサポートセンターを中心に入院支援に取り組んでいる。

◆小松市の防災まちづくりについて

Q 安心でやさしい避難所の整備について特に機能強化とやさしい避難所づくり、避難所運営協議会の設置状況、学校体育館にエアコン設置を求めたいが設置状況は。

A 高齢者など配慮が必要な方々のため、和室やエアコンのある専用ルームを指定。避難所運営協議会は26校下・地区のうち20で設立。エアコン未設置の学校体育館等は今後検討を行うっていく。

◆安全・安心な学校給食について

Q 学校給食のパンの中に、発がん性の疑いのあるグリホサートが農民連の分析調査で発表された小麦粉の使用量について問う。

A アメリカ産とカナダ産を5対5で配合したものを使用している。

Q 食材の安全性の確認について。

A 国の検査に合格したものを使用し、県学校給食会で年1回、残留農薬検査を行っている。



吉村 範明(よしむらのりあき)議員

一問一答

市制80周年に向けて

◆記憶に残り未来永劫つづいていく周年事業に

Q 今回の周年事業はこの地域の歴史を振り返るような事業を計画しているのか。

A 石の文化や北前船、子供歌舞伎など、これまでの取り組みを継続していくことが大切。80周年記念を機に一度立ち返り、いかに次の世代につないでいくか、様々な事業を展開し未来永劫続くようないろいろな仕掛けをしていく。

Q 木場発祥の昔を振り返り、杉を切り緑の少年団を交えて木遣り唄で木場潟を一周引つ張り湖面に浮かべ、丸太乗り競争などをした後、丸太で水質改善の浮島を皆で作るような事業をしてはどうか。

A 80周年の期間に合わせ、市民や団体の皆さんが行う自主的な活動を市民協賛事業に位置付け、12月広報で募集を始めている。また、5万円を限度とするこまつ1000クラブ助成金を活用し、気軽にいろいろな事業を展開したり歴史を振り返っていただきたい。

Q オリパラに絡め競技団体に声を掛け、協賛事業として提案を受け、予算措置を含め事業支援を行うてはどうか。

A 市では、現在市民ら2、020人で共作する九谷焼の記念モノコメントを作成中である。様々な方から寄附等を募り、賛同を得るような企画をお願いしたい。

Q オリパラ合宿国の特産品を使った小松オリジナルのものを作ってはどうか、また、合宿国のチャーター便を飛ばしてはどうか。

A 2020年、80周年や東京オリパラを機会に各国の特産品を使った商品は大事であり、さらに名物が出るよう諸団体と協議していきたい。

Q 今回の周年は、市民の力を借り、企画と運営は市民、お金と知恵は市役所の形で運営してはどうか。

A 市は市民、国民の皆さんからの税金で成り立っており、それを活用して頂くことが市民総参加であり、皆さんに褒めて頂けるよう議会とともにやっていきたい。



栗津診療所の診療時間が午前のみに変わります。



片山 瞬次郎(かたやましゅんじろう)議員

一問一答

幼児教育の無償化調査と 水害における課題

◆幼児教育・保育の無償化を通
じての課題について

Q 幼児教育・保育の無償化を通
じての課題

A 無償化による課題は現在のと
ころ特にないが、社会情勢、
保護者のニーズを注視していく。

Q 保育所・幼稚園教諭の人材の
確保は。

A 働きやすい職場環境整備のた
め、AI技術の活用やインタ
ーネットの学生に対し就労環境等
の魅力をPRする。

Q 障がいのある子ども等の教
育・保育の充実と医療的ケア
が必要な子どもへの支援強化は。

A 保育士等キャリアアップ研修
の中の「障害児保育」分野の
受講により、子どもを安心して預け
られる体制づくりを進めている。

Q 2歳児入所率(令和元年11月
91・2%)増加及び支援策の
上乗せは。

A 現在策定中の子ども子育て支
援事業計画で傾向を反映したい。

◆認定こども園、保育所などの
キッズゾーンについて

Q キッズゾーンの整備と対応は。

A 緊急を要する箇所は、ガードレ
ール設置など対策を実施済み。

◆台風などの水害時における課
題について

Q 長野・千曲川の氾濫を通して
の小松市の課題と治水対策は。

A 対策は、河川改修などの「な
がす」、調整池の「ためる」、
防災訓練などの「そなえる」がある。

Q 増水時のバックウォーター(逆
流)の発生と樋管について。

A 梯川に樋管35カ所あり、本川の
水位を確認しながら逆流の有
無などを確認して開閉操作している。

Q 災害廃棄物への対応について。

A 現在処理について要請はない。

Q 避難意識の改革にわが家の防
災ファイルの活用を。

A 今度、二度改定しているが、
これまで、二度改定しているが、

このま
での災害を受
け、次の改定
を急ぐ。より
活用してもら
えるようなも
のにしたい。



台風19号後の千曲川災害
ごみの仮集積場所(公園)



円地 仁志(えんちひとし)議員

一問一答

入札の状況について

◆月別入札件数

Q 今年度の一般競争、指名競争
の月別入札の発注件数は。

A 4月10件、5月10件、6月28件、
7月35件、8月30件、9月31件、
10月25件、11月29件で合計198件。

Q 4月、5月の発注件数が少な
く、途切れない発注、年間
を通じての発注の平準化が行われて
いないのではないかと。発注の平準化
により一層努めていただきたい。

A 市では債務負担の活用や設計
の前倒しを行い、施工時期の
平準化に寄与している。

◆近年の入札不調、一社入札

Q 今年度の入札不調の件数、1
社入札の件数は。不調、1社
入札の要因をどのように考えるか。

A 入札不調件数2件、1社入札
件数13件。東京オリンピック・
パラリンピックの公共工事、北陸新
幹線工事の進捗や金沢を中心とした
ホテル建設など企業の設備投資が要
因と思われる。

Q 木曾町の市営住宅建設工事で
29年度と30年度に不調になっ
たがその経緯と要因は。

A 29年度、入札公告に3社応募
があったが全社辞退。30年度

に再度入札を行い落札が決定。経済
情勢が要因と思われる。

Q 不調になるといふことで予定価
格が適正なのか疑問に感じるが、
設計価格の積算に当たっては、
国の積算基準や県発行の設計

A 単価表などの最新単価を採用してい
る。よって、設計価格は適正なもの
と考えている。

Q 一社入札が増えていることに対
応した行政側のチェック体制は。

A 今年度より、契約審査委員会
にて落札業者の工事実績など
を確認している。



平成31年3月に完成した市営木曾町住宅